

弘道館



沿革

旧水戸藩の藩校である弘道館は、徳川斉昭が推進した藩政改革の重要施策の一つとして開設されました。

弘道館建学の精神は、天保9年(1838)に斉昭の名で公表された「弘道館記」に「神儒一致」「忠孝一致」「文武一致」「学問事業一致」「治教一致」の5項目として示されています。弘道館は、天保12年(1841)8月1日に仮開館式が挙行され、さらに15年余の年月を要し、安政4年(1857)5月9日に本開館式の日を迎えました。

弘道館では藩士とその子弟が学び、入学年齢は15歳で卒業はありませんでした。学問と武芸の両方が重視され、学問では儒学・礼儀・歴史・天文・数学・地図・和歌・音楽など、武芸では剣術・槍・柔術・兵学・鉄砲・馬術・水泳など多様な科目が教えられていました。

その後、幕末の動乱期を経て、明治5年(1872)の「学制」発布により弘道館は閉鎖され、県庁舎や学校の仮校舎として使用されました。幾度の戦火を免れた正門、正庁及び至善堂は、昭和39年(1964)に国の重要文化財に指定され、往時の姿を今に伝えています。



藩校として全国一の規模をほこる敷地内には、正庁・至善堂を中心に学問を学ぶ文館、武術を修練する武館、医学館、天文台、馬場、訓練場などがあり、総合大学のような施設でした。また、建学の精神を表した弘道館記碑を納める八卦堂、鹿島神社、孔子廟、学生警鐘が建てられた一画は聖域とされていました。

和道館全圖

※この図面は藩校当時のものです。訓練場・馬場・医学館・文館・天文台・武館等は現在は存在していません。



八卦堂(復元)



北柵御門(復元)



学生警鐘



孔子廟(復元)



要石歌碑



正門(重要文化財)



正庁(重要文化財)

現在の弘道館	
藩校当時から現存する建造物・石碑	
藩校当時の面積	10.5ha
弘道館公園の面積	3.2ha



正庁正席の間



正庁諸役会所



至善堂



正門の柱の弾痕



女関前の左近の桜



扁額「游於藝」

見所

藩校当時の建造物が現存する弘道館では、静かな館内を歩きながら水戸の学風に触れることができます。館内には、藩主が臨席して文武の大試験が行われた正庁の間や対試場、徳川慶喜が幼い頃に学び大政奉還の後に恭順謹慎生活を送った至善堂などがあります。

また、厳冬の中いち早く咲く緋梅や斉昭が愛した幾種もの梅、鮮黄色の小花を集めてつける山茱萸、斉昭夫人ゆかりの左近の桜、夏の日差しに映える百日紅、秋に色づく伊呂波紅葉など、四季折々の美しい花や樹木と出会えます。



借楽園 (水戸市常磐町 1-3-3) 休園日なし

入園料：大人 320円 小人 160円 満70歳以上 160円
 団体 (20名以上) 大人 240円 小人 130円
 開園時間：6:00～19:00※1 7:00～18:00※2
 開園から午前 9:00 まで (梅まつり期間は除く) は無料
 常磐自動車道水戸IC (国道 50 号バイパス経由) 約 20 分
 バス JR 水戸駅 (北口④⑥バス乗り場) 約 20 分
 (お問い合わせ) 借楽園公園センター (水戸市見川 1-1251)
 TEL 029-244-5454 FAX 029-244-5866

好文亭

休館日：12/29～12/31
 観覧料：大人 230円 小人 120円 満70歳以上 110円
 団体 (20名以上) 大人 170円 小人 90円
 観覧時間：9:00～17:00※1 9:00～16:30※2※3
 TEL-FAX 029-221-6570

見晴亭 (観光案内・県産品販売)

開館時間：9:00～17:00
 TEL 029-306-8911 FAX 029-306-8912

弘道館 (水戸市三の丸 1-6-29)

休館日：12/29～12/31
 観覧料：大人 420円 小人 210円 満70歳以上 210円
 団体 (20名以上) 大人 320円 小人 160円
 観覧時間：9:00～17:00※1 9:00～16:30※2※3
 徒歩 JR 水戸駅北口 約 8 分
 (お問い合わせ) 弘道館事務所
 TEL 029-231-4725 FAX 029-227-7584

※1 2月中旬～9月30日
 ※2 10月1日～2月中旬
 ※3 梅まつり期間は原則 17:00 まで



借楽園
ホームページ



弘道館
ホームページ

入園がスムーズに！電子チケット販売中。詳しくはHPから
 (表紙) 好文亭四季模様之図 (部分) 大洗町幕末と明治の博物館寄託
 弘道館鳥瞰図 (部分) 徳川斉昭肖像の袴部分



借楽園

弘道館

梅の香漂う歴史の景勝地

史跡・名勝「常磐公園」

江戸時代の総合大学

国指定特別史跡・重要文化財